

令和6年度森林経営管理推進事業の取組状況について

1 要旨・目的

森林所有者自らが経営管理できていない森林を適切に管理していくため、森林環境譲与税を活用し、市町が行う森林整備の促進に向けた取組に対する支援と森林整備の担い手の確保に向けた林業経営体の育成等を実施しており、令和6年度の取組状況を報告する。

2 現状・背景

所有者の施業意思がない森林や所有者の特定が困難であるなど、所有者自らが経営管理できていない森林が増加しており、今後、過疎化や高齢化等により、更に増加することが予想されている。

こうした中、平成31年度から「森林経営管理法」に基づき、森林の経営管理を市町村や意欲と能力のある林業経営者によって持続的に行う「森林経営管理制度」が創設され、その財源として森林環境譲与税が導入されており、制度や財源を活用し、市町とともに取組を進める必要がある。

3 取組状況

(1) 市町支援

森林集積に関する相談体制の構築や県による市町への直接支援等を行い、令和6年度に林業経営適地4,026 ha、合計で14,387 ha（令和12年度目標：4万 ha）を集約化した。

ア 森林集積活動に関する相談体制構築

市町が林業経営適地の集約化に向けた意向調査等の取組を進めるにあたり障壁となった事項に対し、土地集約化や森林境界明確化等の専門家を派遣し、具体的な対応方策を助言することにより、課題を解決した。

支援区分	回数
所有者探索支援	3
森林調査支援	4
その他	1
計	8

イ 県による市町への直接支援等

地域調整会議の開催により森林経営管理制度等の取組に係る関係者の合意形成を図るとともに、市町に対し、意向調査実施区域の森林資源情報や地元説明に必要な資料等の提供、経営管理権集積計画の策定、経営管理実施権の設定等を支援し、林業経営適地の集約化に繋げた。



市町に森林資源情報を説明

ウ 市町職員に対する研修

森林・林業の知識や森林経営管理制度の運用に係る知識等を習得するための研修を実施し、6日間で延べ156人の参加があった。

研修の内容	日数	参加者
林業基礎研修、森林経営管理制度実務、グループワーク	4日間	126人
木材利用推進に係る実務、現地実習	2日間	30人
計	6日間	156人

(2) 林業経営体支援

林業経営体や人材の育成を図るため、林業経営者等へのマネジメント研修等に取り組み、経営力の高い林業経営体数が12社（令和12年度目標：20社）となった。

ア 林業経営者等へのマネジメント研修

中長期の森林整備計画の立案や持続的な企業経営・人材育成等を促すため、経営体の各部門の人材を対象として研修を開催し、延べ49人の参加があった。

イ リーディングモデルとなる林業経営体の育成

県内の規範となり得る林業経営体2社に対し、経営コンサルタントの活用などにより、経営力強化に向けた経営戦略の策定を支援した。

取組主体	取組内容
A林業経営体	・他社との連携強化、主伐・再造林（一貫作業）の推進、新規事業（ドローン運搬）等の取組により経営を安定化させる中期ビジョンを策定
B林業経営体	・評価制度を新設・導入、安全対策の強化等の取組や「自社の特徴」と「求職者の求めるもの」を見直すことにより、人材が定着する職場環境を整備

また、労働災害の防止を図るため、林業経営体13社に対し、外部専門家等の活用による集中的な安全管理の改善や、VR等の先端技術を活用した社内研修の開催を支援した。

ウ 就業希望者・新規就業者に対する個別支援

就業相談員を広島県森林組合連合会に配置し、就業希望者に対して就業フェアに加えホームページやX（旧ツイッター）などのSNSを活用した求人情報の効果的な発信に努めた。

就業相談にきめ細やかに対応したことにより、就業相談者数は148人、新規就業者数は25人となった。

就業後の定着促進のために、ウェブアプリケーションを活用したカウンセリングシステムによりフォローアップを実施した。

また、林業就業への関心を喚起するために、高校生を対象に林業体験学習を実施した。



就業フェアにおける就業相談

エ 低コスト再造林実証等

ICTハーベスタなどのスマート林業機械や、コウヨウザンのノウサギ被害・造林木のシカ被害への対策技術について実証し、低コスト化等の効果を検証するとともに、造林施業に係るコストの低減等を目的に早生樹であるコウヨウザンの普及を図るための研修会を開催した。

ICTハーベスタの実証では、自動採材機能により造材することで丸太の m^3 当たり販売単価が高くなる結果が得られた。ノウサギ被害対策の実証では、単木保護材を設置することで一定の被害防除効果が確認された。

また、これまでに取り組んだ実証等の成果を「広島県省力・低コスト再造林実践の手引」として取りまとめた。



ICTハーベスタによる造材

オ 木材利用促進

木造に関する知識・技術の習得に意欲のある建築士や、木造に関する学習機会が少ない建築系の学生を対象にセミナーを開催し、38名の参加者があった。建築士向けのセミナーには、令和6年度までの4年間で101名の受講があり、修了生による木造の民間建築物の設計が行われている。

建築士や施主を対象として、木造化・木質化に関する様々な相談に対応するため、(一社)広島県木材組合連合会にワンストップの相談窓口を設置し、62件の相談に対応した。

また、県産材の高付加価値利用につながる製品開発を10件支援した。令和6年度までの3年間で25件の開発を支援したうち、12件が製品化された。

3 今後の対応

森林を適切に管理し、森林整備の更なる促進を図るため、継続して、市町の森林経営管理制度の取組支援や、林業経営体の育成強化、林業従事者の確保対策等を行うとともに、低コスト再造林技術の実証により得られた成果の普及を図り、持続的な林業経営の確立に取り組む。